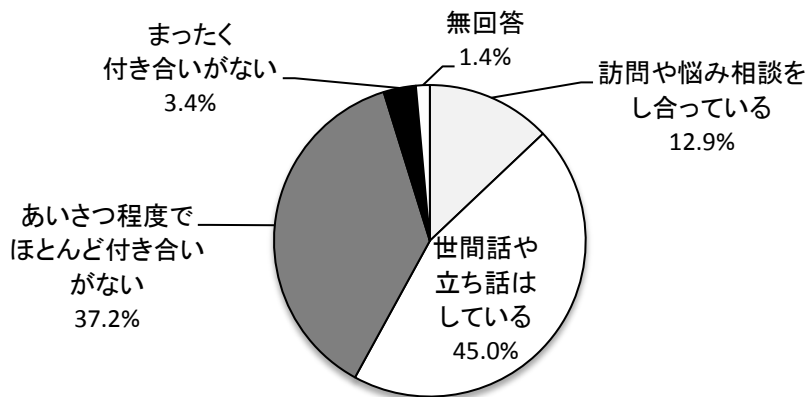


## 2. 地域における支え合いの状況や意識について

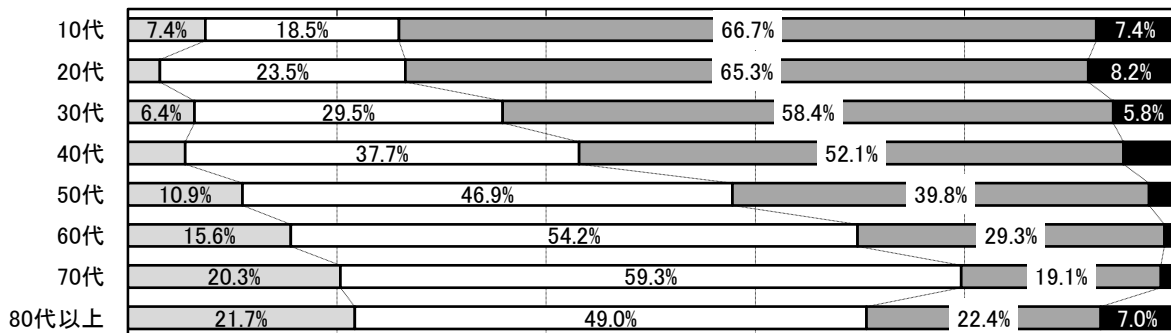
(問9) あなたは日頃、隣り近所とどの程度のお付き合いがありますか。  
(いずれか1つに○)



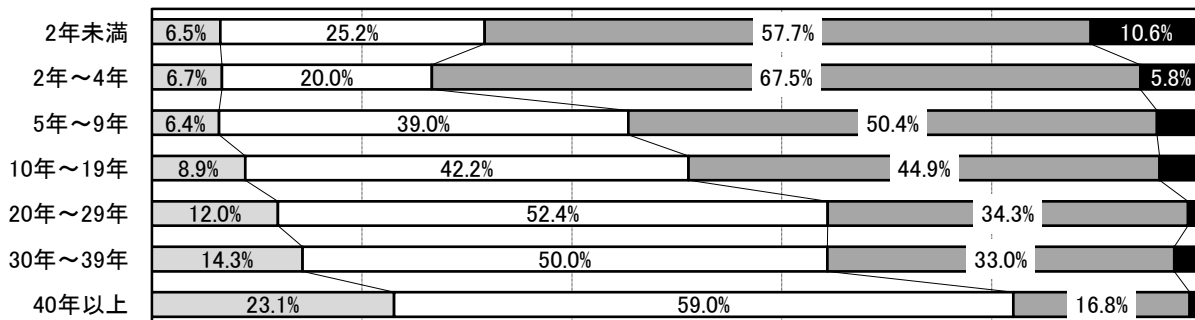
「挨拶をする程度でほとんど付き合いがない」「まったく付き合いがない」を合わせると40.6%となっており、近所付き合いの希薄化を象徴している。

### ■属性別の回答結果 ※無回答は除く

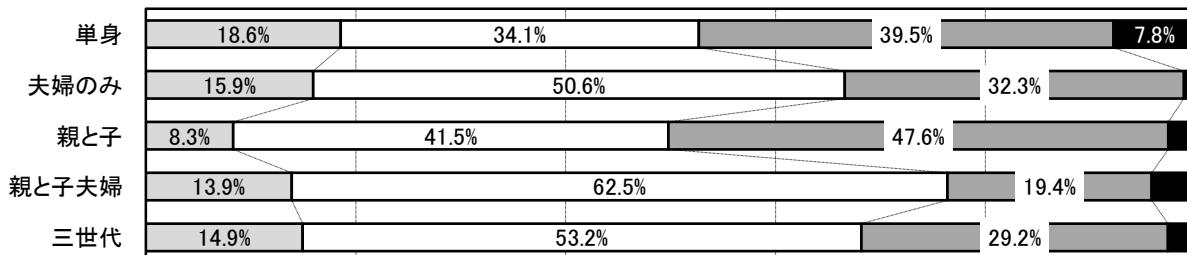
(年齢別) 0% 20% 40% 60% 80% 100%



(居住年数別)

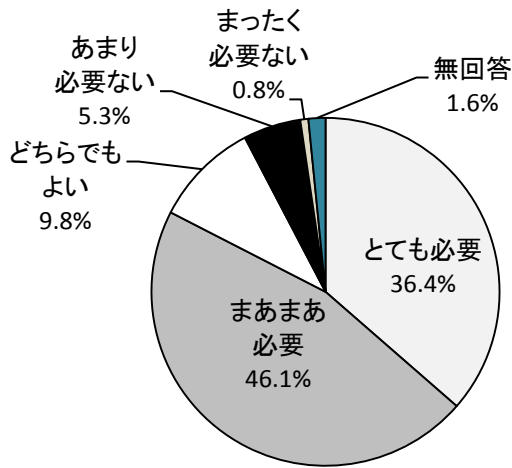


(世帯構成別)



若いほど付き合いが少ないが、80代以上になると付き合いが少ない。また、居住年数が長いほど付き合いも深い。20年以上住んでいる人でも「訪問などをし合う」付き合いのある人は全体の1～2割程度。世帯別では、単身世帯で「まったく付き合いがない」が最も大きい。

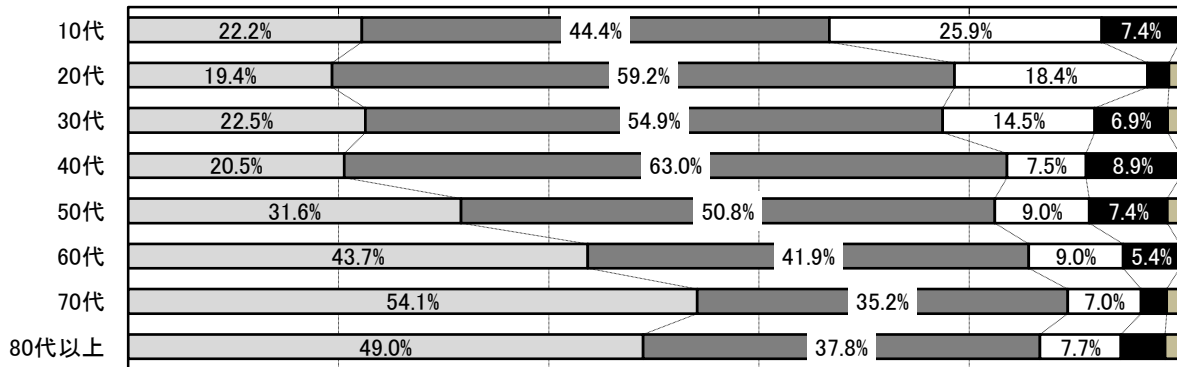
(問10) あなたは日頃の生活を送る上で、隣り近所とのお付き合いが必要だと思いますか。  
(いずれか1つに○)



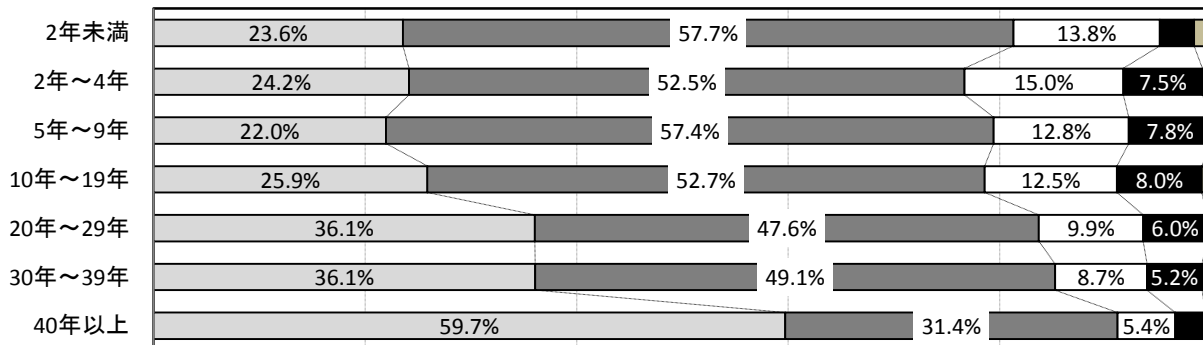
問9の結果とは反対に、「とても必要」「まあまあ必要」の両者を合わせると82.5%と、近所付き合いが必要であるという意識は高い。

■ 属性別の回答結果 ※無回答は除く

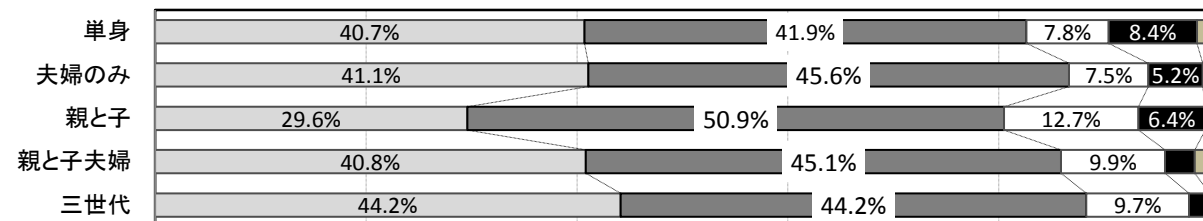
(年齢別) 0% 20% 40% 60% 80% 100%



(居住年数別)



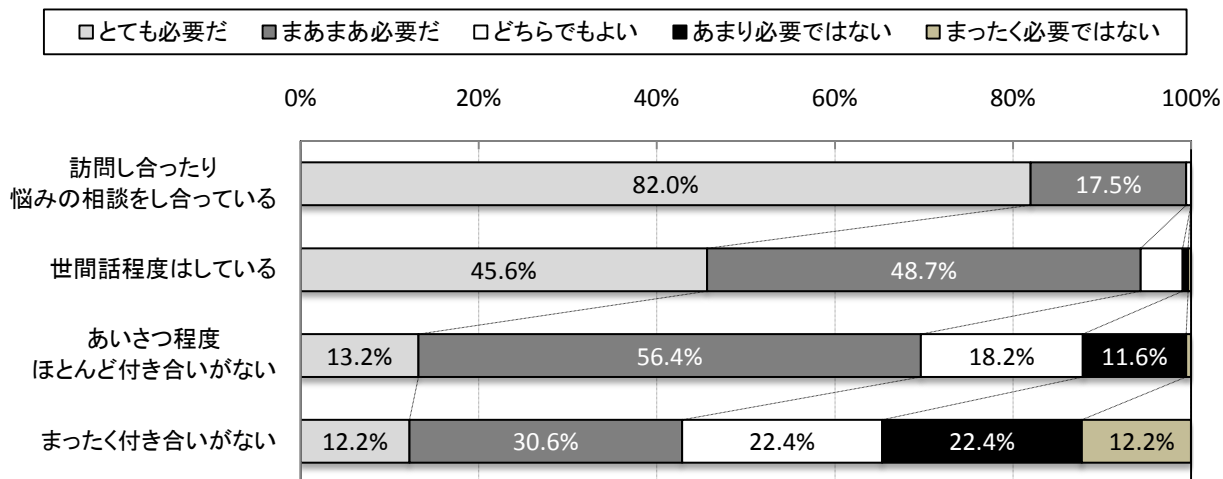
(世帯構成別)



各年齢別の「とても必要だ」「まあまあ必要だ」の合計は概ね80%以上のなか、10代では66%で、「どちらでもよい」も25%以上など関心が薄さが表れている。  
また、居住年数や世帯構成に関わらず必要性の意識は高い。居住40年以上の人では60%近くが「とても必要」としている。単身世帯でも他の世帯構成と同様に意識は高いことも特徴。

■ 関連する設問との分析 ※無回答は除く

《隣り近所との付き合いの状況（問9の結果）との関係》



訪問や相談をし合っている人にとっては必要性の意識はかなり高いが、付き合いの少なさに対応するように、必要性の意識も小さくなっている。しかしながら、「まったく付き合いがない」ながらも、付き合いが必要と考えている人は決して少なくはない。

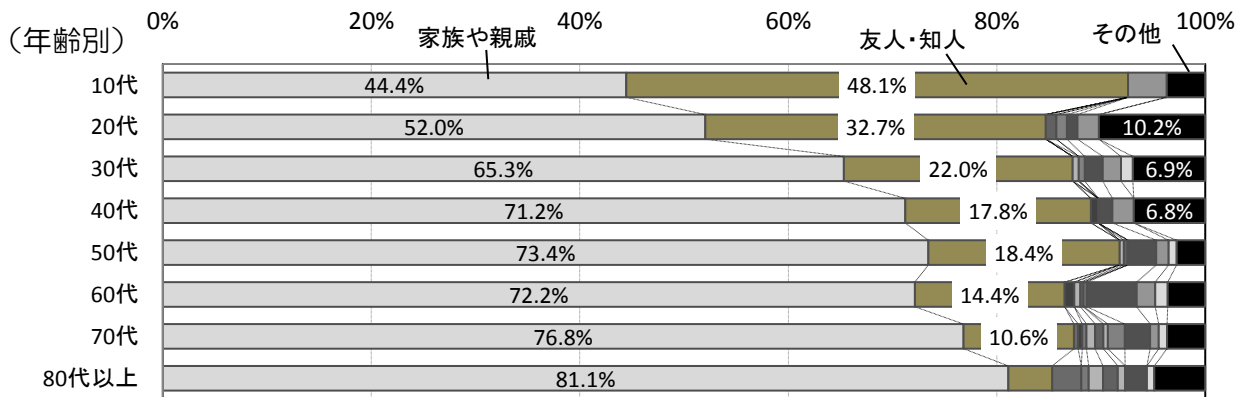
(問11) あなたに悩みや困り事があったときの、身近な相談相手は誰ですか。  
(いずれか1つに○)

選択肢	回答率(%)
1 家族や親戚	70.4
2 友人・知人	16.2
3 地区の民生委員や主任児童委員	0.3
4 役所など行政機関の相談窓口	0.3
5 社会福祉協議会	0.1
6 福祉関係の事業所の職員	0.5
7 ボランティア・NPO活動をしている人	0.0
8 かかりつけの医療機関	0.5
9 町内会・自治会・公民館などの長	0.1
10 隣り近所の人	0.5
11 誰にも相談せず、自分で解決する	2.7
12 相談相手はいない	1.4
13 わからない	0.8
14 その他	4.7
無回答	1.4

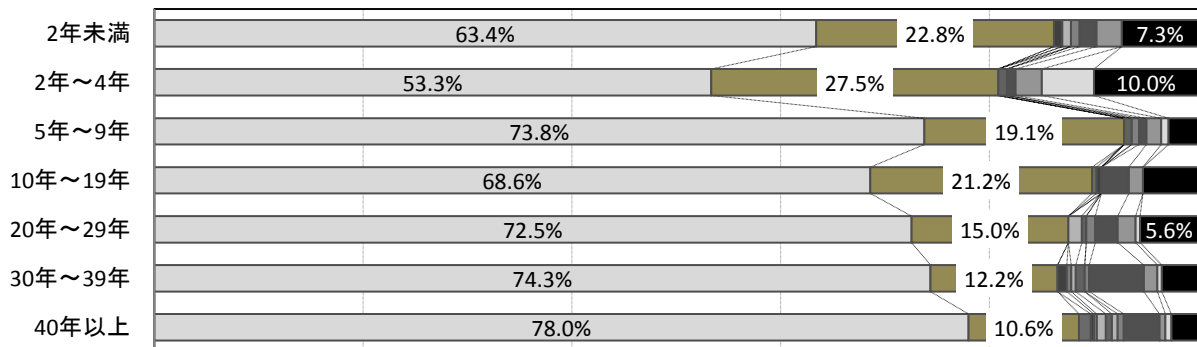
「家族や親戚」が圧倒的に多い。「その他」は「内容によって異なる」など。

■属性別の回答結果

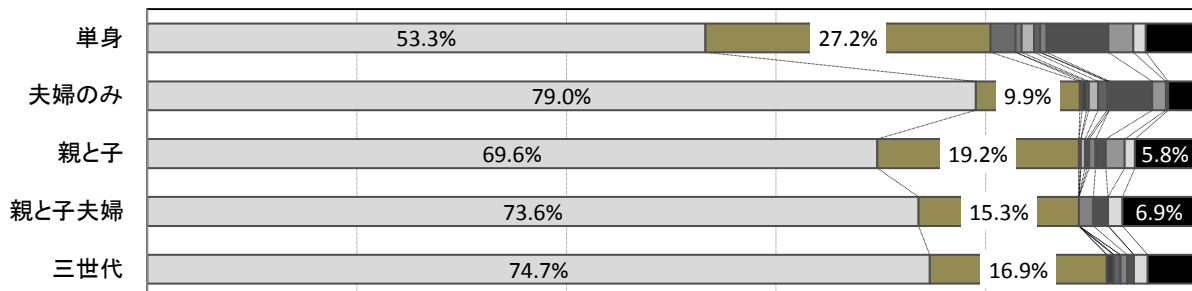
※無回答は除く



(居住年数別)

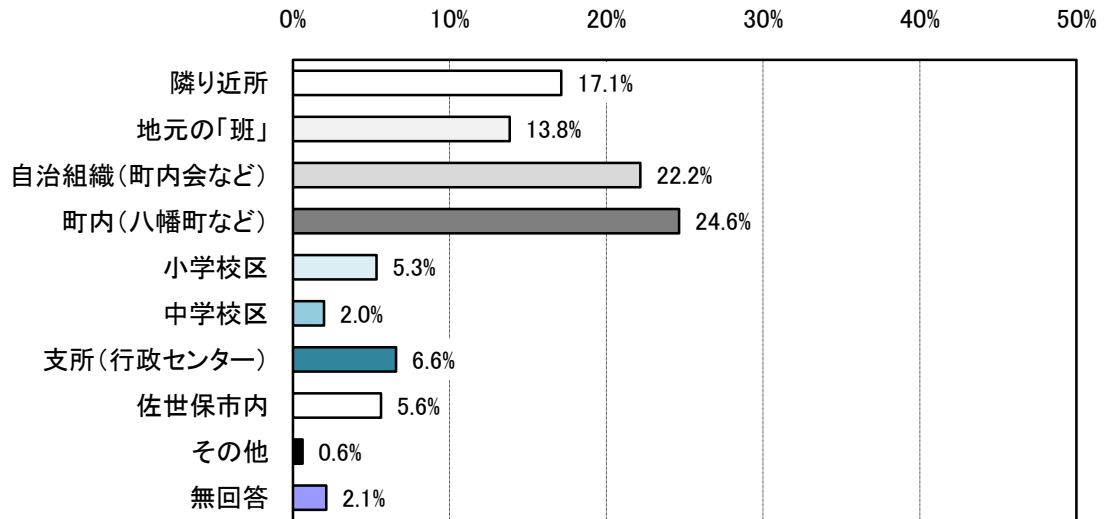


(世帯構成別)



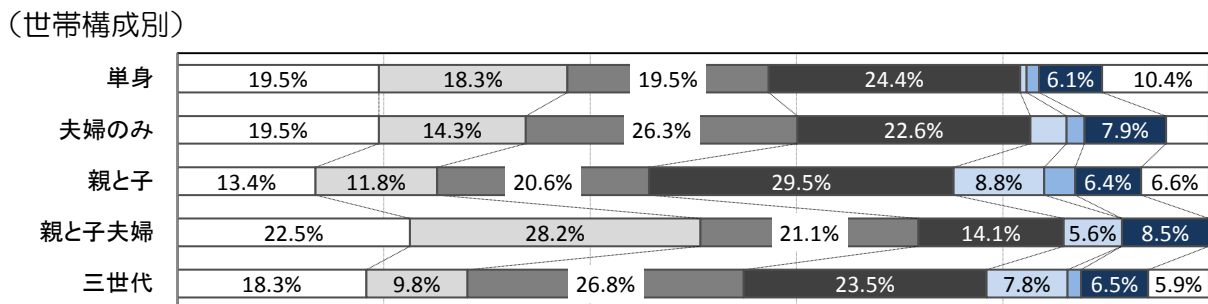
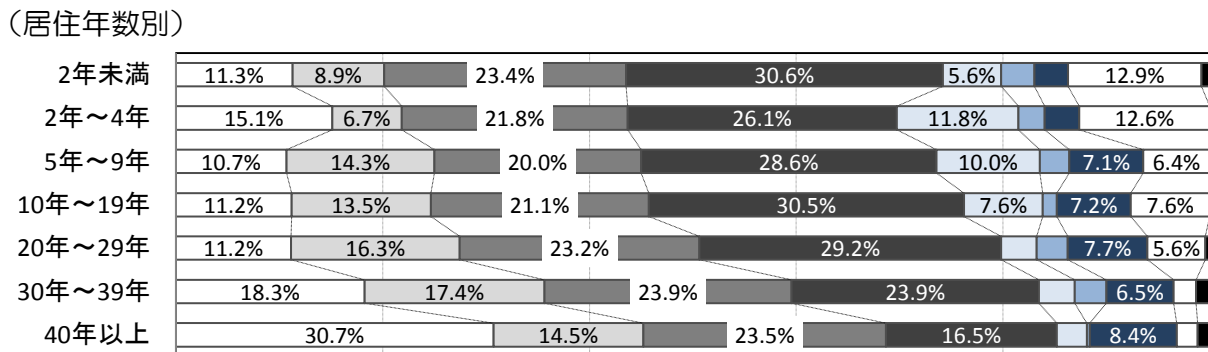
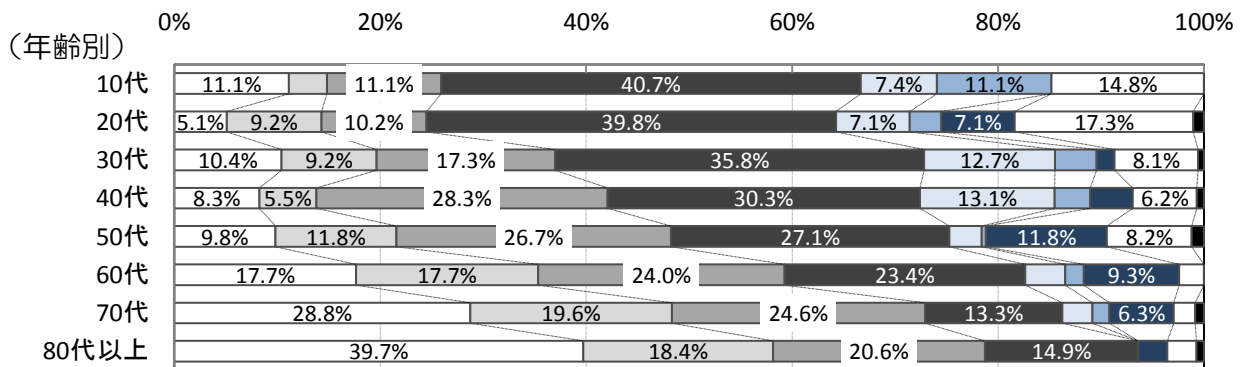
全体的に年齢が高いほど「家族」、低いほど「友人・知人」の割合が高く、居住年数や世帯構成別の結果からもその傾向がうかがえる。20歳未満では「家族」より「友人・知人」の割合が高いことや、夫婦のみの世帯で「家族や親戚」が最も多いことが特徴的。  
身近な相談相手としてこれ以外の1つを選ぶのは難しかったかと思われる。

(問12) あなたが「地域」と聞いてイメージするのは、どの範囲ですか。  
(いずれか1つに○)



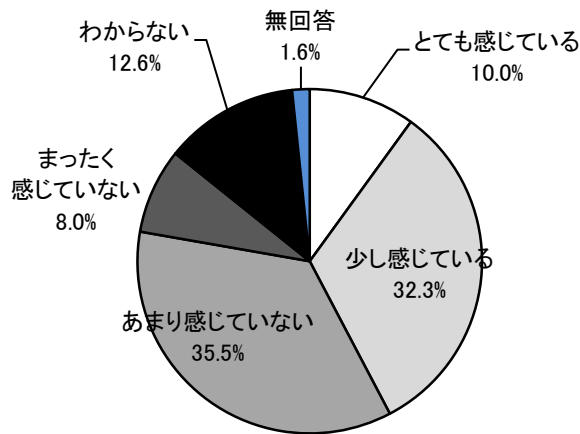
「その他」では、「隣り近所」と「地元の「班」」、「地元の「班」と「町内」などの複数回答や、「商店街」などの回答も見られた。

■ 属性別の回答結果 ※無回答は除く



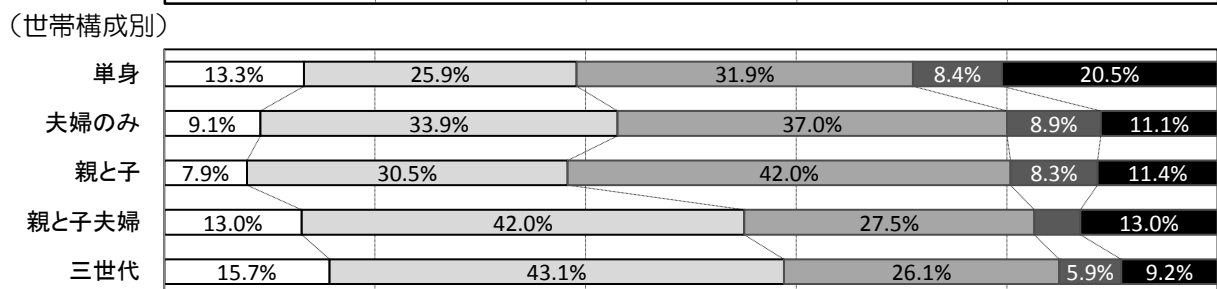
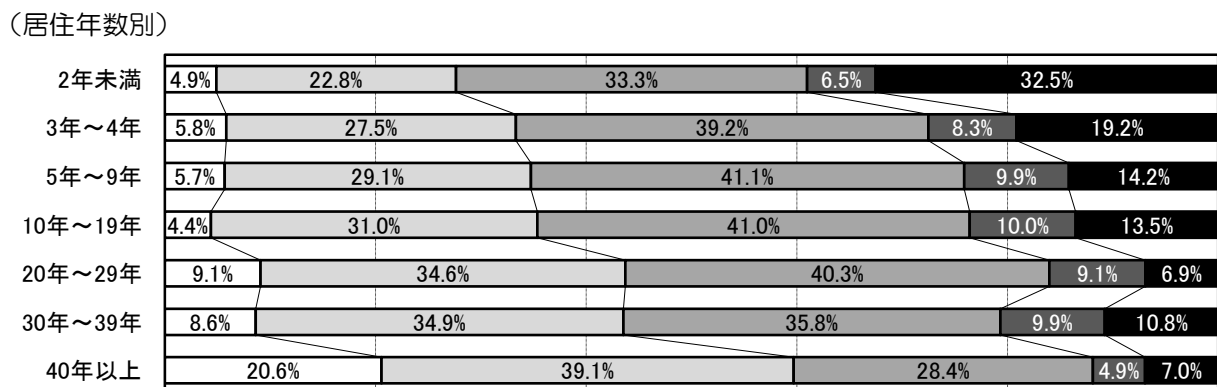
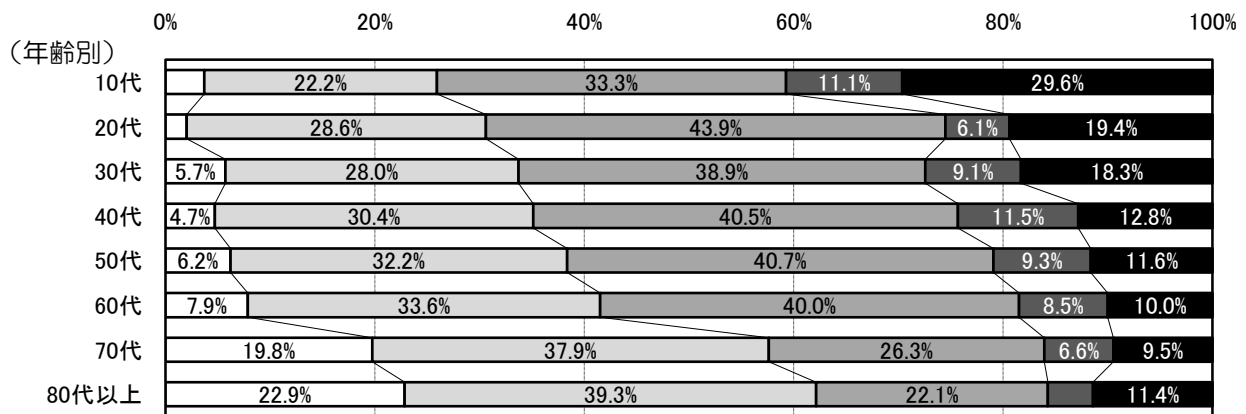
若い年代ほど「町内」が多い。また40代以上では、年齢が高いほど狭い範囲の回答が多い。居住年数別では大きな違いは見られないが、居住40年以上になると「隣り近所」「地元の「班」」の回答も多い。世帯別では、親と子の夫婦世帯に「地元の「班」」との回答が多いことも特徴的。

(問13) あなたのお住まいの地域では、子ども、高齢者、障がい者を含めてお互いの生活を地域全体で支え合っていると感じていますか。  
(いずれか1つに○)



「とても感じている」「少し感じている」を合わせても42.3%であり、問9の「隣近所との付き合い」の結果と重なるような結果となった。

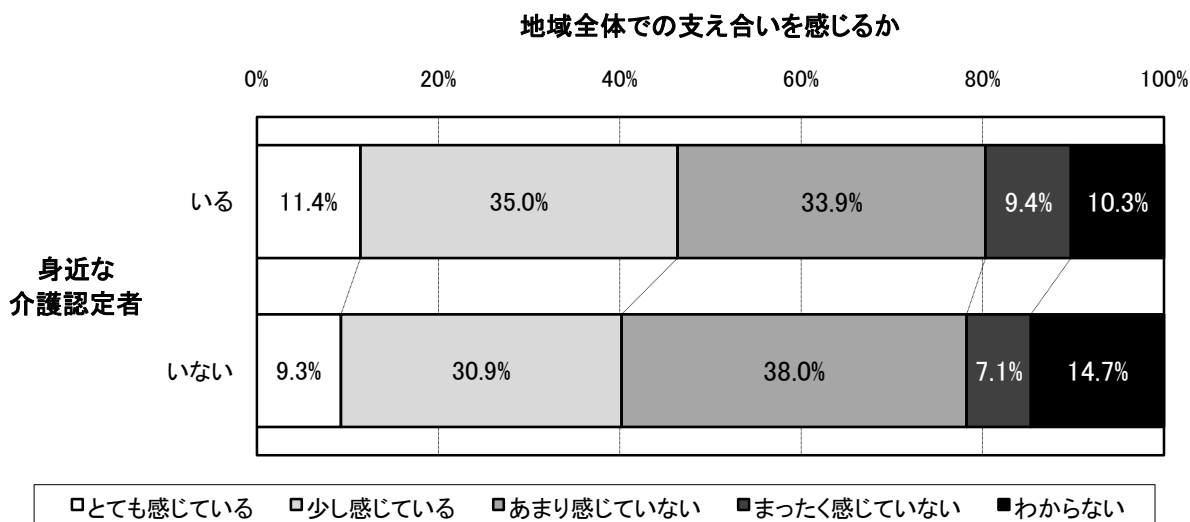
■ 属性別の回答結果 ※無回答は除く



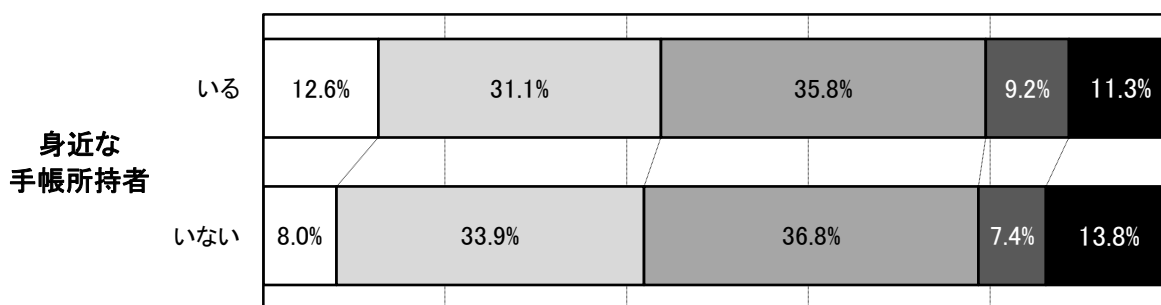
年齢が高いほど地域での支え合いを感じているが、「とても感じている」「少し感じている」を合わせて50%を超えたのは70代以上のみ。また、居住年数20年未満では「とても感じている」「少し感じている」を合わせても4割に満たない。単身世帯では「わからない」が20%を超えている。

■関連する設問との分析 ※無回答は除く

《身近な介護認定者の有無（問7の結果）との関係》

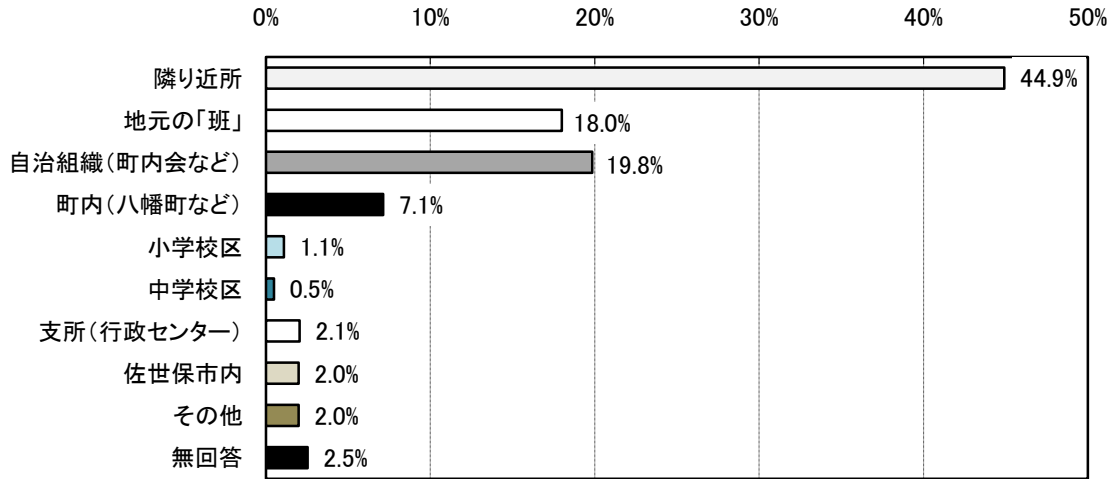


《身近な障がい手帳所持者の有無（問8の結果）との関係》



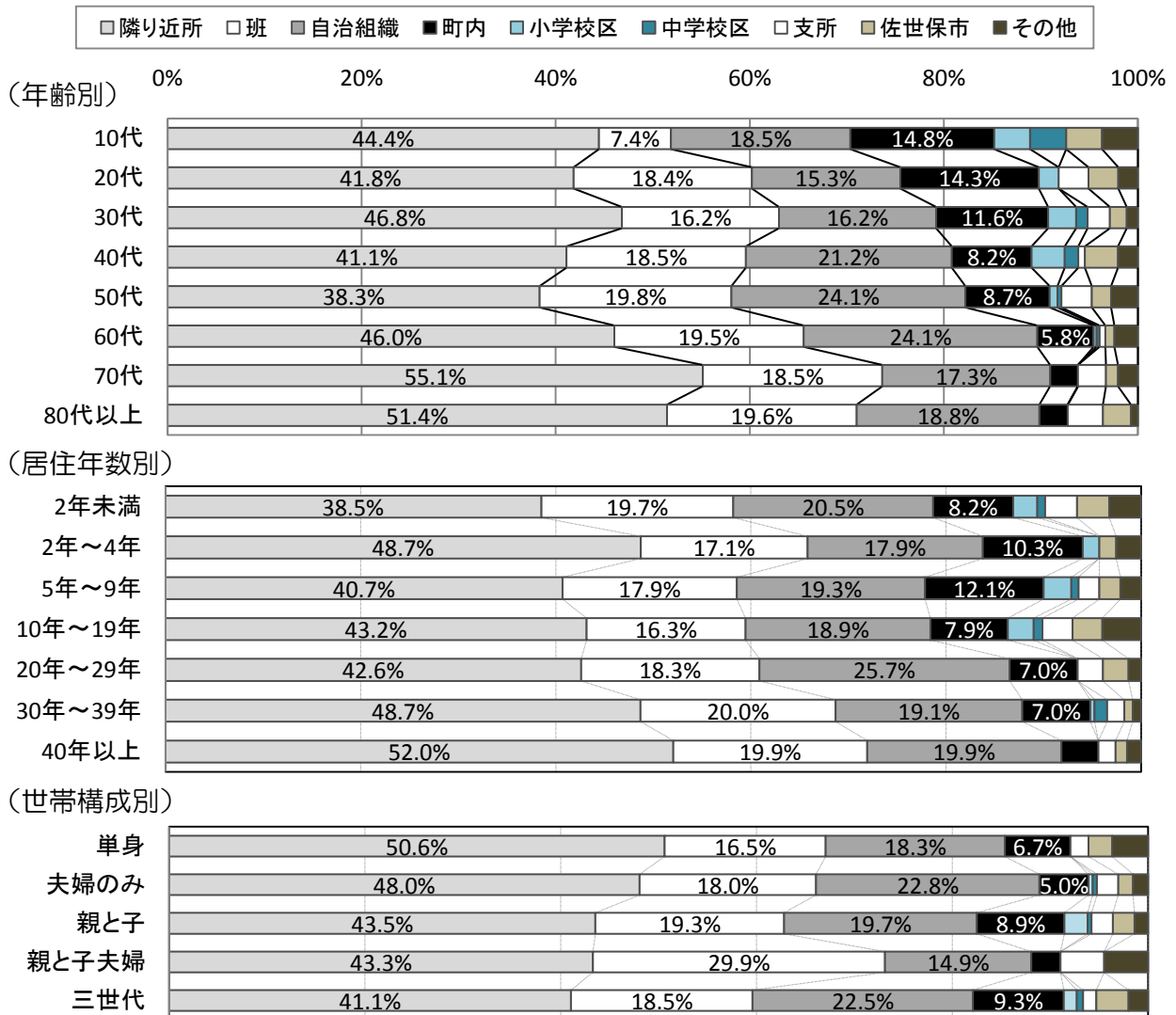
いずれの場合も「とても感じている」「少し感じている」を合わせると、身近に該当者（介護認定者や障がい者）がいる場合のほうが地域での支え合いを感じている。

(問14) あなたは、住民同士がお互いに助け合えるのは、どの範囲だと思いますか。  
(いずれか1つに○)



「隣り近所」が圧倒的。それ以外では「班」「自治組織」で約4割を占めた。多くの市民にとって“助け合いは身近な範囲で行うもの”という意識が高い。

■ 属性別の回答結果 ※無回答は除く



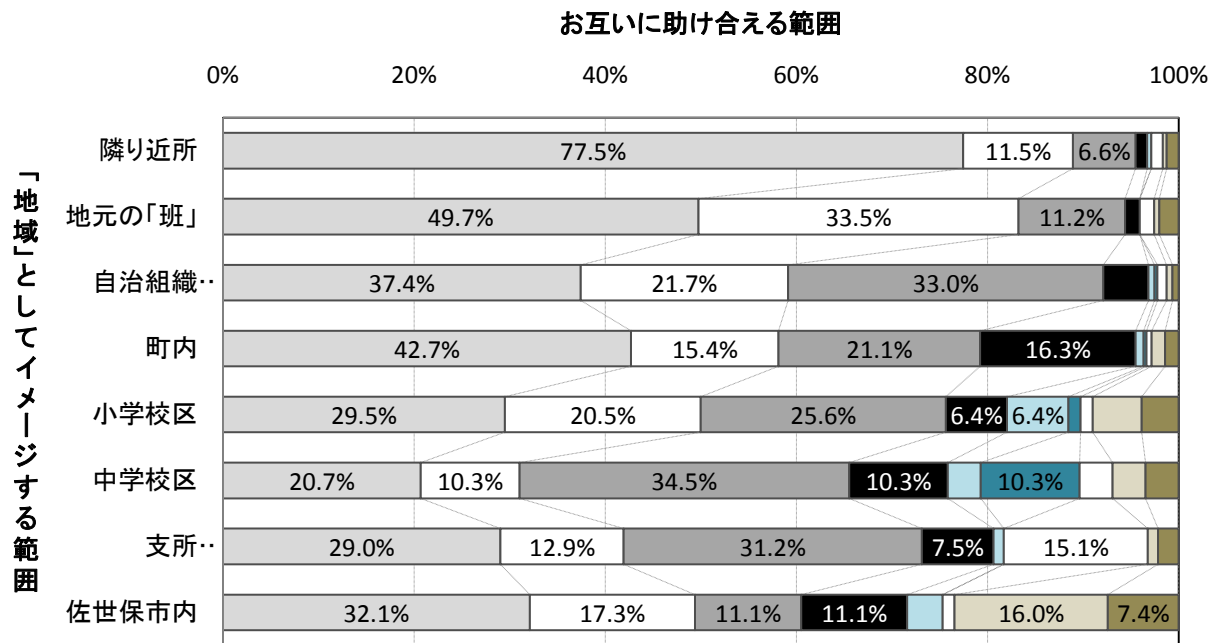
どの属性別でも「隣り近所」「地元の班」「自治組織」という狭い範囲が7割～9割近くを占めている。「町内」は若い世代や居住年数の浅い人には多少選ばれているものの、年代が上がるごとに少ない。また、どの属性でも学校区以上の範囲はわずか。



■関連する設問との分析 ※無回答は除く

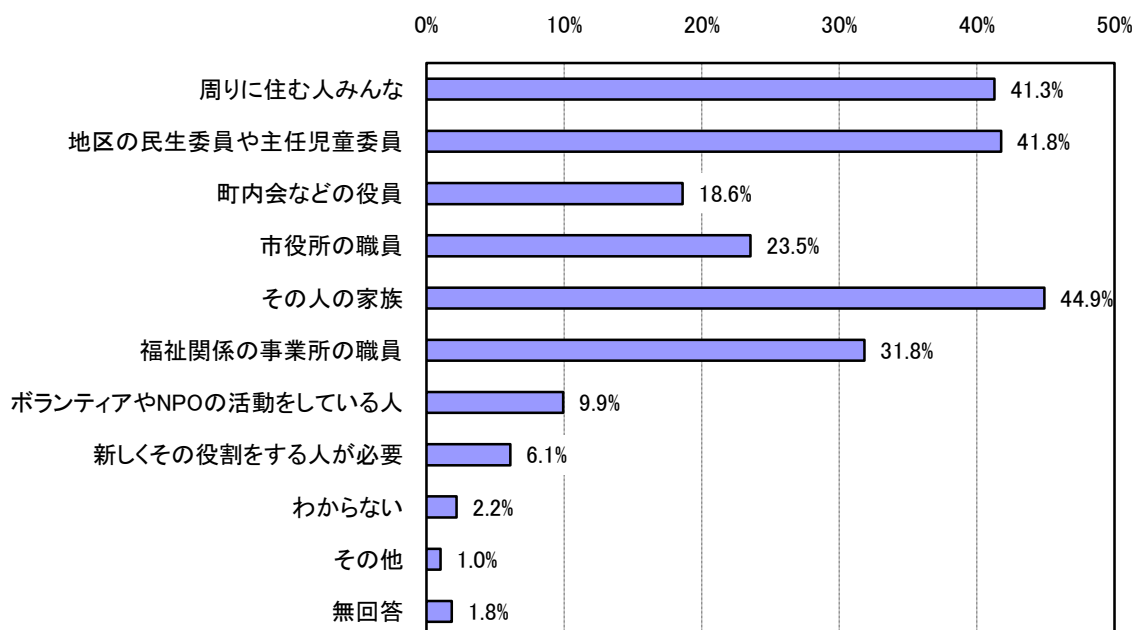
《「地域」とイメージする範囲（問12の結果）との関係》

□隣り近所 □班 ■自治組織(町内会等) ■町内 □小学校区 ■中学校区 □支所 □佐世保市 ■その他



多くは「地域」のイメージとして選択した範囲よりも小さい範囲を選んでいる傾向にあり、「地域」のイメージと「実際に助け合える範囲」は異なると考えられていることが明らかになった。

(問15) あなたは、ひとり暮らしの高齢者や障がいのある方など、生活上何らかの支援が必要な方が困っているときに、誰がその相談相手になるべきだと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)



「その人の家族」や「地区の民生委員や主任児童委員」と同程度に「周りに住む人みんな」という回答が多かったことが印象的。

#### ■属性別の回答結果（上位ベスト3のみ）

（年齢別）

	1位	2位	3位
10代	その人の家族 (48.1%)	周りに住む人みんな (44.4%)	市役所の職員 (33.3%)
20代	その人の家族 (57.1%)	周りに住む人みんな (43.9%)	市役所の職員 (41.8%)
30代	その人の家族 (57.1%)	福祉関係事業所の職員 (45.1%)	周りに住む人みんな (39.4%)
40代	その人の家族 (55.7%)	民生委員や主任児童委員 (47.0%)	福祉関係事業所の職員 (39.6%)
50代	その人の家族 (48.6%)	周りに住む人みんな (47.5%)	民生委員や主任児童委員 (41.3%)
60代	その人の家族 (44.9%)	周りに住む人みんな (42.6%)	民生委員や主任児童委員 (42.0%)
70代	民生委員や主任児童委員 (46.6%)	周りに住む人みんな (36.5%)	その人の家族 (29.7%)
80代～	民生委員や主任児童委員 (43.9%)	周りに住む人みんな (41.9%)	その人の家族 (32.4%)

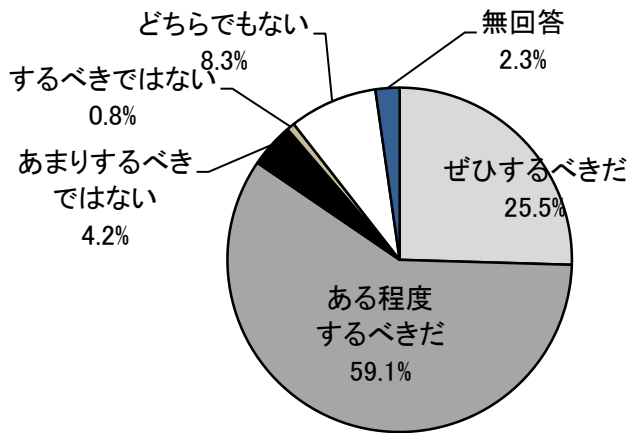
（居住年数別）

	1位	2位	3位
2年未満	その人の家族 (55.2%)	周りに住む人みんな (43.2%)	福祉関係事業所の職員 (41.6%)
～4年	その人の家族 (50.8%)	周りに住む人みんな (37.7%)	福祉関係事業所の職員 (37.7%)
～9年	その人の家族 (53.2%)	福祉関係事業所の職員 (39.7%)	周りに住む人みんな (38.3%)
～19年	その人の家族 (48.7%)	民生委員や主任児童委員 (40.9%)	周りに住む人みんな (34.8%)
～29年	その人の家族 (46.8%)	周りに住む人みんな (45.5%)	民生委員や主任児童委員 (42.9%)
～39年	周りに住む人みんな (44.0%)	民生委員や主任児童委員 (42.3%)	その人の家族 (41.9%)
40年～	民生委員や主任児童委員 (47.2%)	周りに住む人みんな (42.7%)	その人の家族 (35.4%)

（世帯構成別）

	1位	2位	3位
単身	周りに住む人みんな (42.4%)	その人の家族 (40.0%)	民生委員や主任児童委員 (36.5%)
夫婦のみ	その人の家族 (43.5%)	民生委員や主任児童委員 (43.3%)	周りに住む人みんな (41.6%)
親と子	その人の家族 (49.8%)	民生委員や主任児童委員 (42.2%)	周りに住む人みんな (40.2%)
親と子夫婦	民生委員や主任児童委員 (44.4%)	周りに住む人みんな (38.9%)	その人の家族 (33.3%)
三世帯	その人の家族 (47.4%)	周りに住む人みんな (44.2%)	民生委員や主任児童委員 (43.6%)
その他	その人の家族 (44.4%)	周りに住む人みんな (38.1%)	市役所の職員 (30.2%)

(問16) あなたは、ひとり暮らしの高齢者や障がいのある方など、生活上何らかの支援が必要な方に対して、地域で助け合って日常生活のお手伝いなどをするべきだと思いますか。  
(いずれか1つに○)

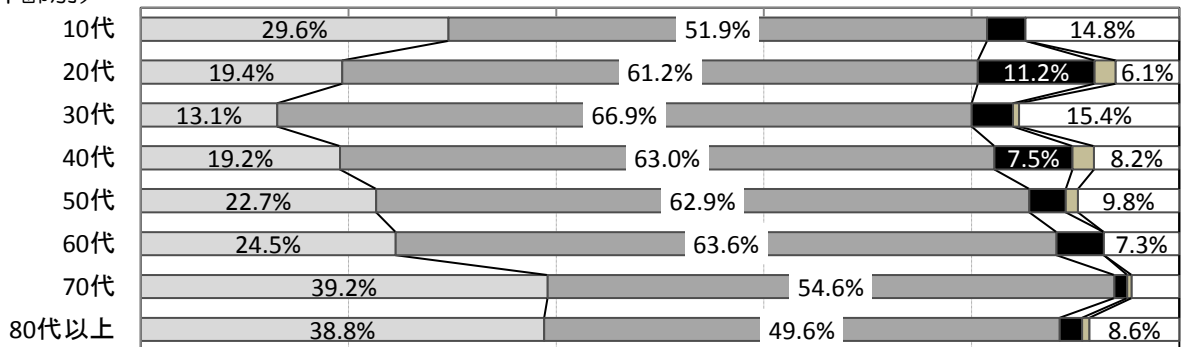


「ぜひすべきだ」「ある程度すべきだ」を合わせると8割を超えており、助け合いの必要性の意識は高い。

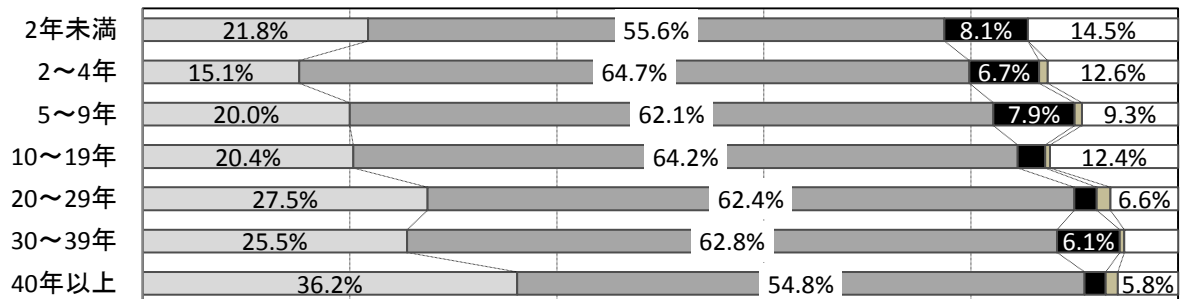
■属性別の回答結果 ※無回答は除く

0% 20% 40% 60% 80% 100%

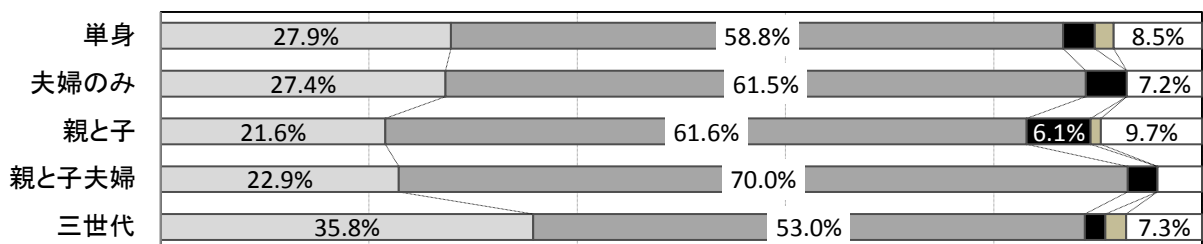
(年齢別)



(居住年数別)



(世帯構成別)

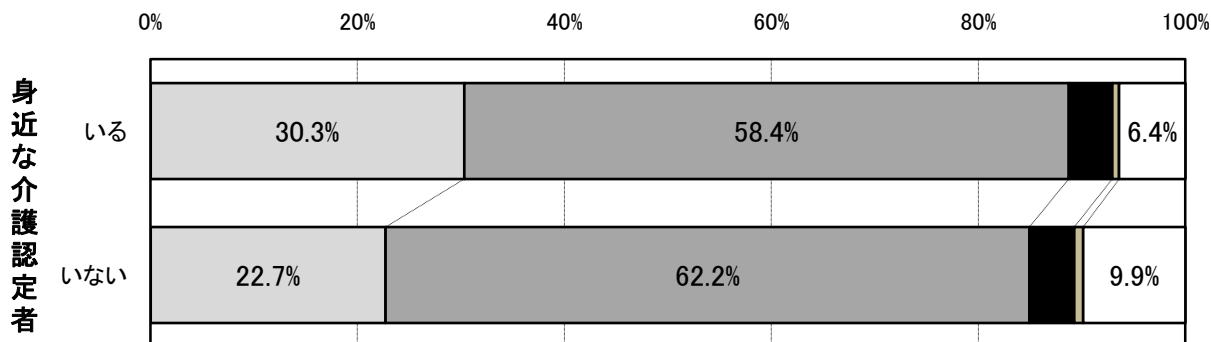


どの属性別でも「ぜひすべきだ」「ある程度すべきだ」を合わせるとほぼ80%以上となっており、意識の高さが表れている。中でも「ぜひすべきだ」は、年齢の高い世代や比較的長期の居住者、三世帯居住者など地域との密着度の高い人に多い。

■関連する設問との分析 ※無回答は除く

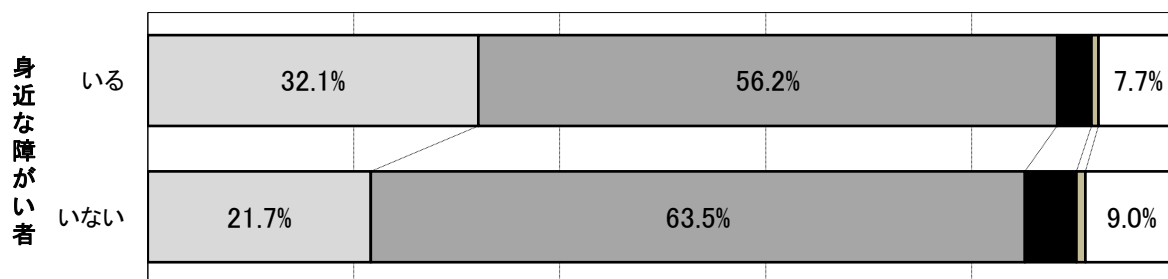
《身近な介護認定者の有無（問7の結果）との関係》

地域で助け合って生活の支援をするべきか



□ぜひすべきだ □ある程度すべきだ ■あまりすべきではない □するべきではない □どちらでもない

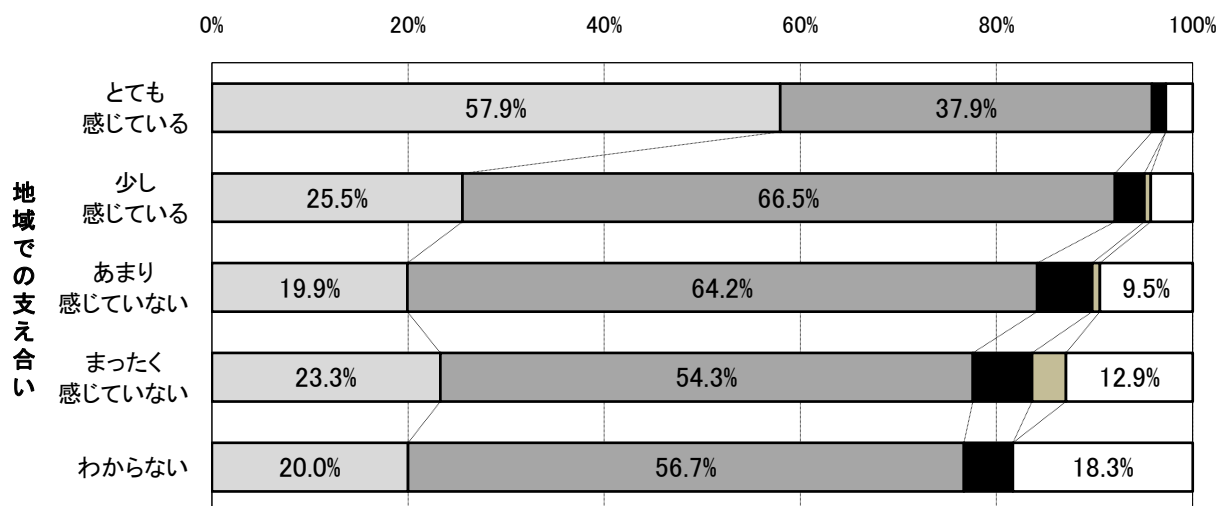
《身近な障がい手帳所持者の有無（問8の結果）との関係》



いずれの場合も同じような結果。身近に該当者（介護認定者や障がい者）がいる人の方が「地域で助け合って支援をすべき」という意向が少し大きい。

《地域での支え合いの感覚（問13の結果）との関係》

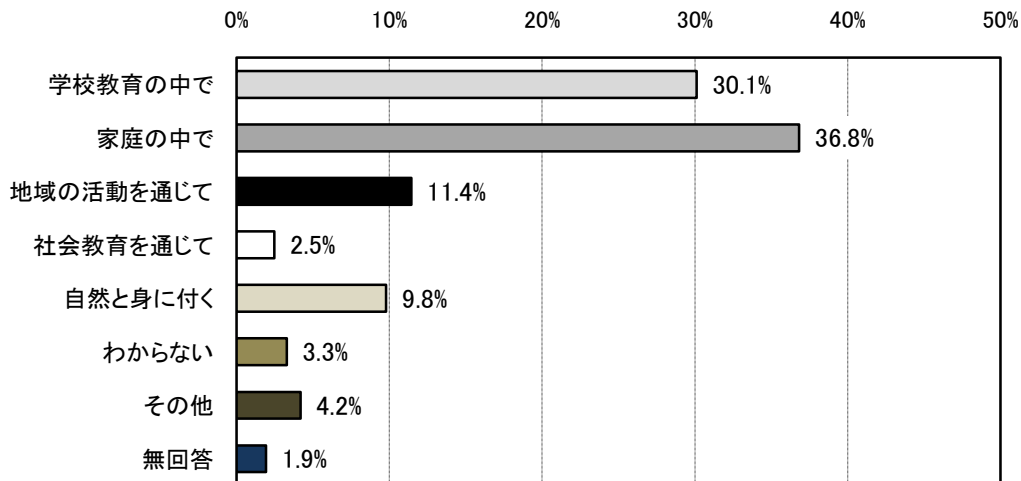
地域で助け合って生活の支援をするべきか



□ぜひすべきだ □ある程度すべきだ ■あまりすべきではない □するべきではない □どちらでもない

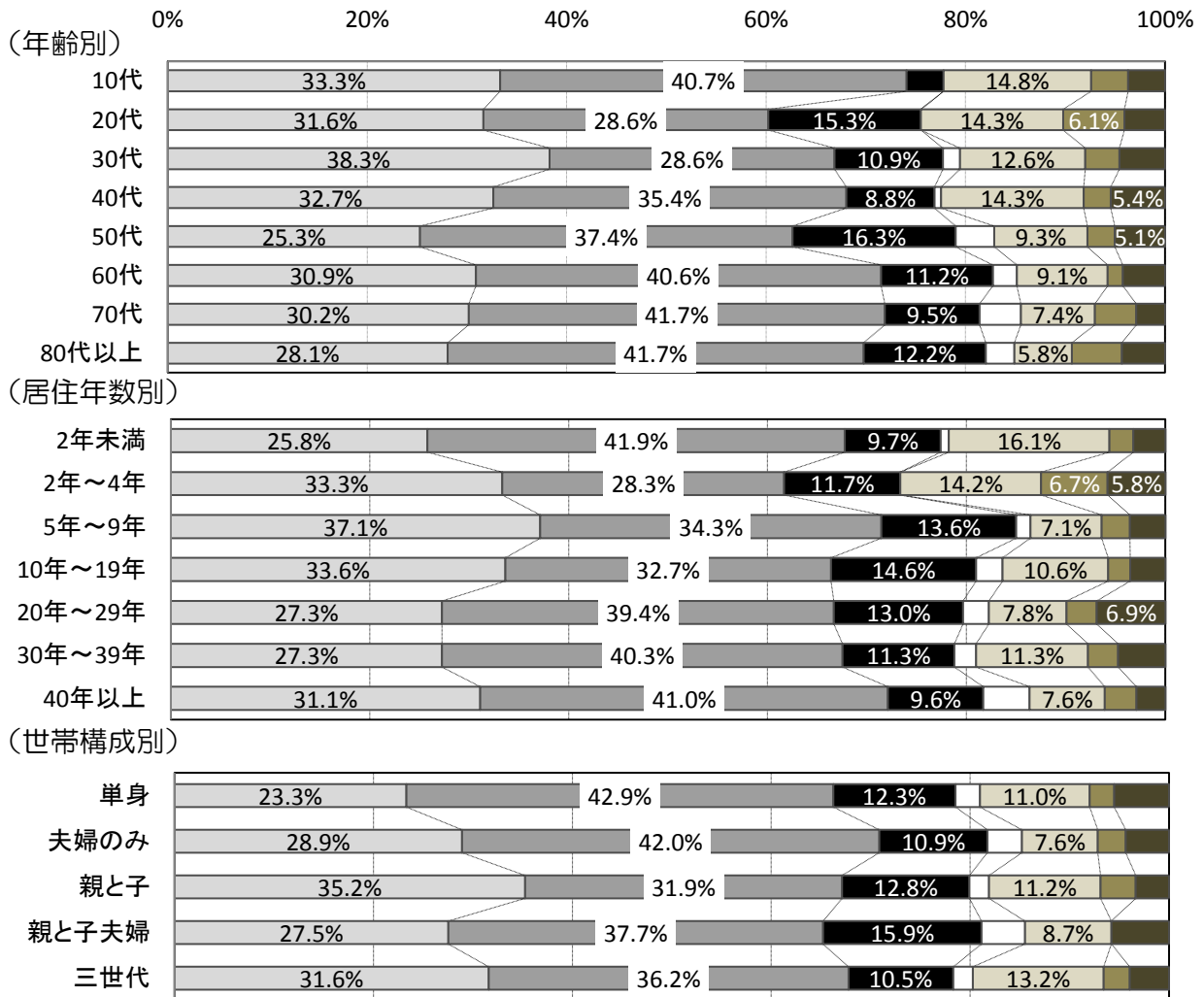
地域での支え合いを「とても感じている」と答えた人の半数以上が地域での支援を「ぜひすべきだ」と答えている。また、地域の現状に関わらず、支援を「是非すべきだ」「ある程度すべきだ」という回答が8割から9割を占めている。

(問17) あなたは、児童・生徒に対する福祉教育（思いやりの心や福祉への理解と参加の心を育てる教育）について、どのように行うべきだと思いますか。  
 (いずれか1つに○)



「家庭の中で学ぶべきだ」「学校教育の中で学ぶべきだ」で66.9%と多くを占めた。「その他」には、「学校教育の中で」と「家庭の中で」の複数回答や、「いずれも大切でどれか一つとは言えない」などの回答も見られた。

■属性別の回答結果 ※無回答は除く



属性別で際立って大きな差は見られず、6割から7割は「学校教育」や「家庭」となっている。10代では「地域の活動」「社会教育」という意見が極端に少ない。